ＴＣＣ聖会報告

去る３月１７日に、東京キリストの教会で聖会の御用をさせていただきました。教会にとって重要な意味を持つ聖会になるのではないかと思い、数ヶ月前から、祈りの中で神の導きを求めましたが、ゼカリヤ書４章６―７節から語るべきではないかと感じました。

「すると彼は、私に答えてこう言った。『これはゼルバベルへの主のことばだ。「権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって」と万軍の主は仰せられる。大いなる山よ。おまえは何者だ。ゼルバベルの前で平地となれ。彼は、「恵みあれ。これに恵みあれ」と叫びながら、かしら石を運び出そう。』」

権力や能力、つまり人間的な力（手法）を用いて伝道をしたり、弟子訓練を行なったりする教会が増えている今、ゼカリヤ書の聖句はますます必要な警告だと、私は数十年前から痛感しています。「霊的権威」を振りかざしながら、「絶対服従」を強要したり、「このグループを離れたらあなたは滅びる」と人を脅したり、「あなたは何も考えないで、私の言うことを聞いていれば良い」と強引に思考停止をさせたりするグループをたくさん見て来ましたが、いわゆる「マインド・コントロール」的な手法によって、驚くべき効果が出ます。会員数が多くなり、グループのために献身的に働く人も起こされます。しかし、それは聖霊による働きではありません。聖霊は人にプレッシャーをかけることも、強制的に信じさせることもなさいません。ジェントルマンとして優しく働き掛けてくださり、みことばに応答するように励ましてくださるお方です。人は聖霊の取り扱いの中で、「これこそ真理だ」と納得して、自らキリストを信じ、キリストに従う決心をするのです。私たちは聖霊の手助けをするのではなく、あくまでも聖霊のみわざを待ち望むべきです。肉の働きは、一時的に成功しているように見えても、その実は長続きしません。聖霊のみわざだけが残るのです。

「権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって」というゼカリヤ書のメッセージに対して、２００人ほどの聖会の参加者は、真剣に耳を傾けておられるように感じました。うなずく方、合づちを打つ方、「アーメン」と声を出す方、様々でしたが、午後の眠くなる時間帯であったのにもかかわらず、居眠りをする方は一人もいませんでした。また、メッセージ後に、質問や相談のある方が数十人、前に来て、個人的に話をすることができました。その中で、次のような感想が聞かれました。

「もっと祈らなければならないことが分かりました。」

「まだ、私たちに反省すべきところがあると示されました。」

「とても励まされました。」

「聖霊が働いてくださることを祈って聖会に臨んだのですが、自分の中でわだかまりになっていたものが取れました。祈りの答えだと信じています。」

教会の体質（霊的 DNA）を変えるということはとても困難なことですが、東京キリスト

の教会が、これからも主にある健全さを求めて、一歩一歩進んでいかれることを予感させる聖会でした。